

## 第 8 章

### 専業主婦／主夫願望の要因に関する分析

滋賀大学データサイエンス学部 齊藤亜海

#### 1. 問題の所在

日本では、女性の社会進出に向けて改革が行われている。2003年に少子化社会対策基本法が成立し、政府は仕事と子育ての両立や待機児童対策、保育料無償化や働き方改革、男性の育児参加などを推進し、2019年10月からは幼児教育や保育の無償化を始めるなど、子育て世帯への支援は強化され、女性の社会進出や労働環境の整備などが年々進められている（厚生労働省 2019）。

このように女性の働く環境が整備される一方で、女性の働く意識はどのように変化しているのだろうか。近年の高学歴女性を対象とした調査では、結婚すれば専業主婦になりたいという女性は減少傾向にあると言われている。しかし、結婚すれば家庭に入りその後は最就業しないと予測している女性は少ないが、結婚や育児で退職する人を想定している女性は高学歴者の中にも多い。高学歴者は社会の中でリベラルな考え方を持つと一般的には考えられているが、専業主婦に関する意識についてはそうではない結果となっている（大沢 2015）。

以上より、環境は整備されつつあるが、女性自身の意識をみると、社会進出の促進を進める上で、ズレがあることが分かっている。そこで、現在働いている女性の専業主婦願望を強める要素を見つけ、それを改善し弱めることができれば、女性の就業率の上昇につながるのではないだろうか。さらに、最近では専業主夫である夫の割合も増加していることから、女性と同様に専業主夫願望を持つ男性にはどのような特徴があるのかを検討し、妻の専業主婦願望とどのような違いがあるのかを比較する。

以上を踏まえ、本稿では、妻の専業主婦願望、夫の専業主夫願望の要因となっているものを明らかにすることを目的とする。続く第2節では先行研究を整理し、本稿で分析する仮説を構築する。3節では使用するデータと変数を概観し第4節で分析結果を報告する。最後に第5節で分析結果から考察を行う。

#### 2. 先行研究と仮説

##### 2-1. 先行研究

実際の女子大生に働くつもりがあるのかアンケート調査を行った白河(2014)によると、女子大生は「早く結婚し、早く子供を産んで、就業継続したい」と答える人が半数以上である。就業意識は決して低くない。この調査では、さらに働き方について詳しく尋ねているが、その結果、専業主婦になりたいという人はほとんどいないが、一時期仕事を辞めるつもりであると考えている人は約40%である。このような女性たちは「養ってくれる人

が現れる」と信じていると言われている。それが隠れた専業主婦願望であり、いつかは専業主婦になりたいと考えている人が潜在していることを示している。また、実際の 20 代の未婚で総合職などで男性と同等に活躍している女性には、隠れ専業主婦志向が多いことが言われている。

しかし、白河の結果については、基礎集計の結果にとどまっており、結局どのような要因が専業主婦願望を高めるのか、多変量解析の結果が示されてない。さらに、女子大生に対するアンケートの結果であり、現在働いている女性についての専業主婦願望について、専業主婦願望が強い女性がどのような女性なのか、明らかになっていない。

## 2-2. 仮説

専業主婦願望、専業主夫願望を持つ人はどのような特徴がある人だろうか。本稿では以下の仮説を検討する。

仮説 1：最終学歴が高いほど、専業主婦願望、専業主夫願望が強い

仮説 2：子供の人数が多い人ほど、専業主婦願望、専業主夫願望が弱い

仮説 3：子供の世話時間が短い人ほど、専業主婦願望、専業主夫願望が強い

仮説 1 は、高学歴の方が低学歴者に比べて高キャリアで正規雇用の職に就く傾向があるが、子育てと仕事の両立が難しいと考えられるため、高学歴の方が専業主婦願望が強いのではないかと考えられる。仮説 2、3 は、先行研究より、結婚と出産のことを考えると、仕事をしていたとしても辞めて専業主婦になりたい女性が多いことから、子供の有無によって専業主婦願望に強弱があるのか検証するため、これらの仮説を立てた。同様に男性の専業主夫願望についても検討する。

これらの仮説を検討するために、まず、専業主婦願望、専業主夫願望を持つ人がどの程度いるか記述統計から確認する。次に、仮説ごとにクロス集計を行い、基礎的な関連性について検討する。最後に基礎的な集計結果について他の変数を統制しても関連が見られるか、重回帰分析によって検討する。

## 3. 使用するデータと変数

### 3-1. 使用するデータ

使用するデータには、「大津市男女共同参画及び女性活躍に関する調査」（以下、大津市調査と表記）を使う。調査の概要を表 1 に示す。このデータは大津市に限定しているものの、現在専業主婦、専業主夫でない人に対して専業主婦願望、専業主夫願望を尋ねていることから、本課題を行う上で適切なデータである。

表 1. 調査概要

調査名	大津市男女共同参画及び女性活躍に関する調査
調査対象	大津市に在住している30歳～49歳の有配偶男女
調査時期	2019年9月14日～9月30日
調査方法	郵送法
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
計画標本	4000
サンプルサイズ	1969
回収率	49.2%

### 3-2. 使用する変数

従属変数は専業主婦願望を使用する。「大津市調査」では、5, 4, 3, 2, 1(あてはまる, …, あてはまらない)5点尺度で尋ねている。

独立変数は本人の最終学歴と子どもの人数を使用する。最終学歴は6段階で尋ねられているが、高卒以下/専門・短大・高専/大卒以上の3カテゴリに統合した。子どもの人数は0人/1人/2人/3人以上の4カテゴリに統合した。統制変数として、年齢(連続量)、妻の年収(4カテゴリ)、夫の年収(4カテゴリ)を使用した。今回は、欠損値のある回答者、現在専業主婦、専業主夫である回答者は分析から除外し、最終的に欠損値のない女性の回答者753名、男性の回答者710名を使用した。

表 2. 使用する変数の記述統計量

変数	女性 (n=753)		男性 (n=710)	
	Mean (%)	SD	Mean (%)	SD
<b>従属変数</b>				
専業主婦願望				
5 あてはまる	13.7		12.3	
4 どちらかといえばあてはまる	15.9		9.3	
3 どちらともいえない	20.7		17.2	
2 どちらかといえばあてはまらない	23.6		17.0	
1 あてはまらない	26.0		44.2	
<b>独立変数</b>				
学歴				
高卒以下 (%)	18.3		16.8	
専門・短大・高専 (%)	39.8		19.0	
大学以上 (%)	41.8		64.2	
子供の人数				
0人	18.3		14.9	
1人	20.3		27.0	
2人	46.1		43.8	
3人以上	15.3		14.2	
子供の世話時間(平日)				
0~30分	51.9		84.4	
31~100分	23.4		11.4	
101分以上	24.7		4.2	
<b>統制変数</b>				
年齢	40.7	5.34	41.3	5.21
本人の年収(万円)				
0~99万円	33.9		1.3	
100~399万円	39.6		13.2	
400万円以上	21.6		80.8	
わからない・答えたくない	4.9		4.6	
配偶者の年収(万円)				
0~399万円	21.2		77.6	
400~599万円	35.7		9.9	
600万円以上	33.5		5.2	
わからない・答えたくない	9.6		7.3	

表 2 に使用する変数の記述統計量を示す。この表によると、女性の専業主婦願望はすべての願望度が一定の割合で存在している。一方で、男性の専業主夫願望が弱い人の割合は 44.2% ととても高いことが分かる。子供の世話時間(平日)では、女性と男性共に 0~30 分のカテゴリに属している人が多い。また、妻の年収は 400 万円未満の人が約 70%、夫の年収は 400 万円以上の人が約 80%である。

## 4. 分析

### 4-1. 基礎的な分析

まず基礎的な分析として、最終学歴別の専業主婦願望についてクロス集計をしたものを図 1、専業主夫願望についてクロス集計したものを図 2 に示す。女性の場合、最終学歴によって専業主婦願望には差があることが示された ( $\chi^2 = 15.34$ ,  $df = 8$ ,  $p = 0.05$ )。具体的には、最終学歴が高いほど専業主婦願望は弱い。男性の場合、最終学歴によって差がないことが示された ( $\chi^2 = 10.18$ ,  $df = 8$ ,  $p = 0.25$ )。

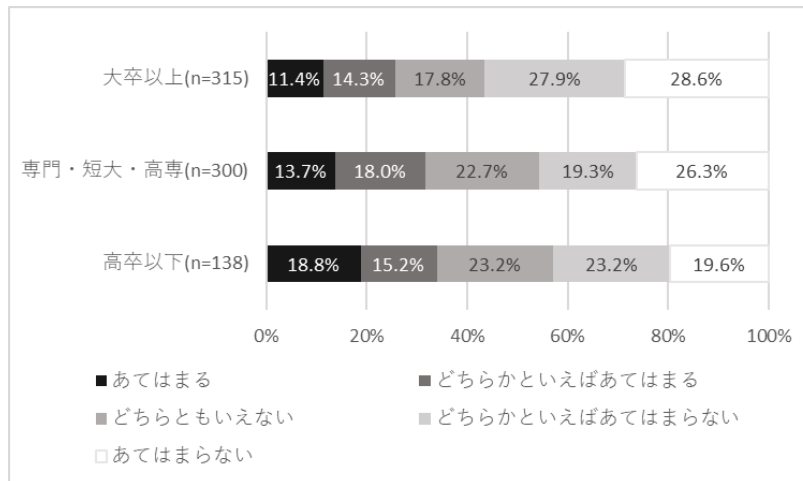


図 1. 最終学歴と専業主婦願望 (女性)

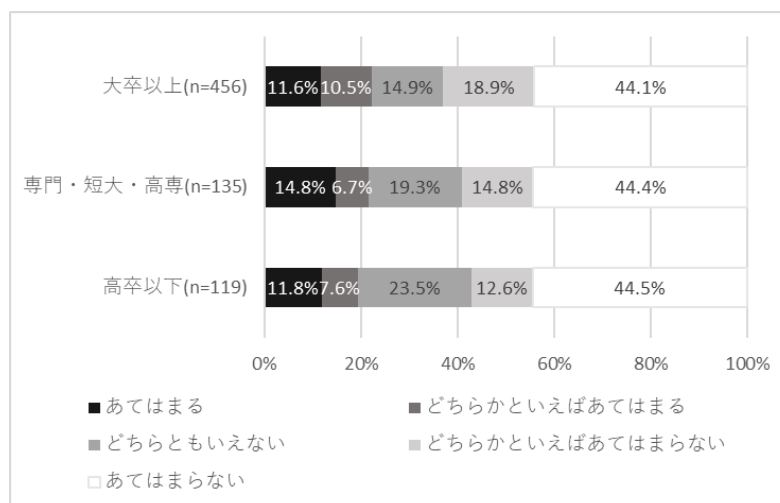


図 2. 最終学歴と専業主夫願望 (男性)

次に、子どもの人数別の専業主婦願望についてクロス集計をしたものを図3、専業主夫願望についてクロス集計したものを図4に示す。女性の場合、子どもがいる人は人数によって専業主婦願望によって差がないことが示された ( $x^2 = 15.77$ ,  $df = 12$ ,  $p = 0.20$ )。男性の場合も同様に、子どもがいる人は人数によって専業主夫願望には差がないことが示された ( $x^2 = 20.68$ ,  $df = 12$ ,  $p = 0.06$ )。

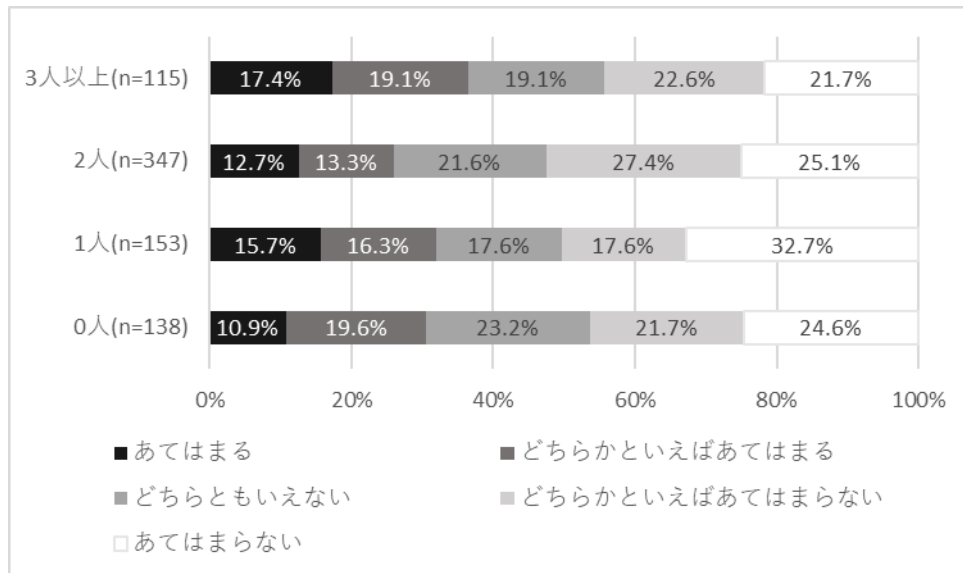


図3. 子供の人数と専業主婦願望(女性)

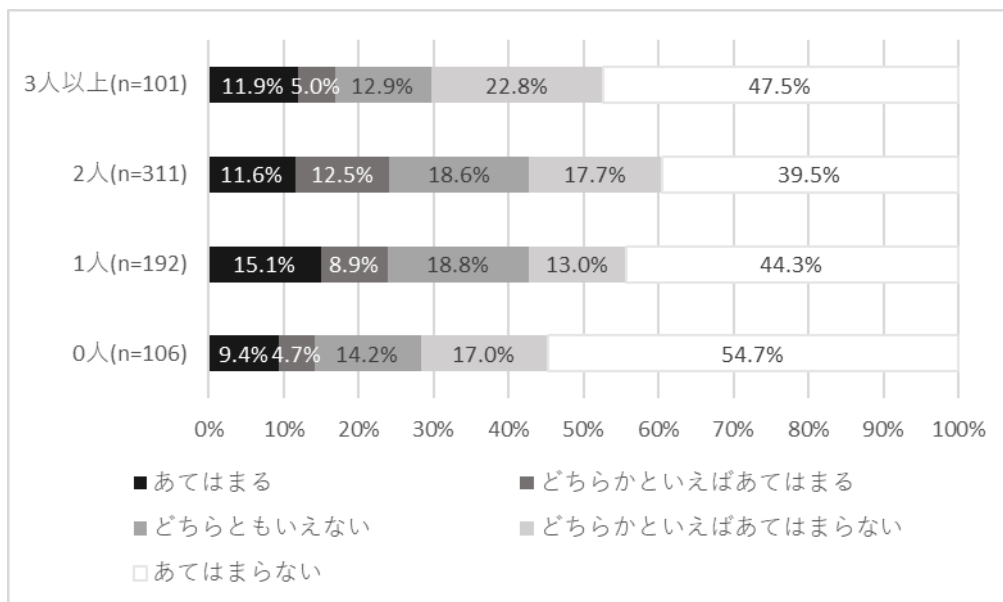


図4. 子供の人数と専業主夫願望(男性)

最後に、平日の子どもの世話別の専業主婦願望についてクロス集計をしたものを図5、専業主夫願望についてクロス集計したものを図6に示す。女性の場合、平日の子どもの世話

時間によって専業主婦願望には差がないことが示された ( $x^2 = 5.05$ ,  $df = 8$ ,  $p = 0.752$ )。男性の場合も同様に、平日の子供の世話時間によって専業主夫願望によって差がないことが示された ( $x^2 = 11.66$ ,  $df = 8$ ,  $p = 0.17$ )。

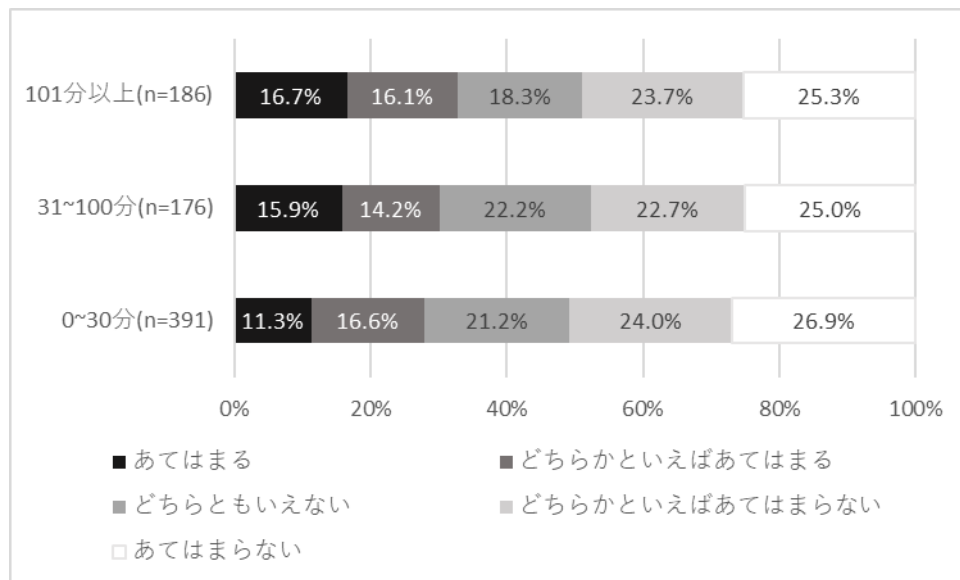


図5. 子供の世話時間と専業主婦願望(女性)

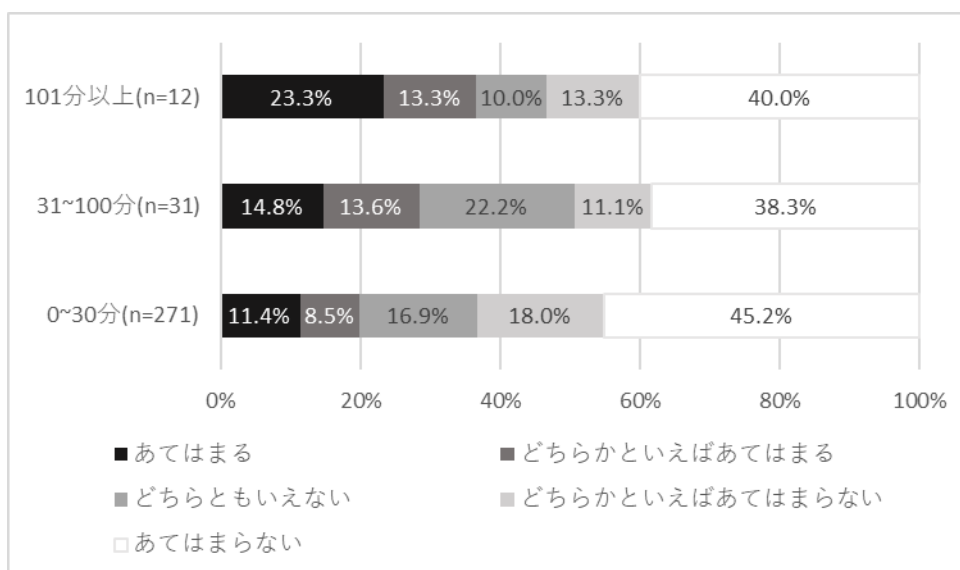


図6. 子供の世話時間と専業主夫願望(男性)

この単純集計の結果からは、専業主婦願望について、最終学歴が高いほど専業主婦願望が弱いということが示唆されているが、学歴の専業主婦願望に対する効果は年齢や妻の収入、夫の収入といった別の変数と交絡している可能性がある。よって、次節では多変量解析によってこれらの変数を統制した上でも、専業主婦願望、専業主夫願望と最終学歴の関

連がみられるのか確認する。

#### 4-2. 多変量解析

本節では、最終学歴、子どもの人数、子供の世話時間(平日)の効果が他の変数を統制しても影響があるか、多変量解析によって検討する。表3は重回帰分析の結果である。この表によると、女性の場合、学歴、子供の人数、子供の世話時間(平日)との関連は認められなかったが、統制変数に使用した変数が関連しており、年齢が低いほど専業主婦願望が強くなるという結果となる。一方男性の場合、学歴、子供の世話時間(平日)との関連は認められなかったが、子供の人数が関連しており、子供が0人である人に比べると、子供の人数が1人もしくは2人であると、専業主夫願望が強くなるという結果になる。

以上の結果より、女性の場合、専業主婦願望を弱くする要素は年齢であるが、男性の場合、専業主夫願望を強くする要素は子供の人数であることが明らかになり、仮説とは異なる結果となった。この結果を踏まえて次節では考察を行う。

表3. 重回帰分析の結果

変数	女性	男性
	B	B
切片	-2.327	-3.735
高卒以下(ref.)		
短大・高専・専門	-0.116	-0.021
大卒以上	-0.292	-0.029
子供0人(ref.)		
子供1人	-0.169	0.364 *
子供2人	-0.224	0.402 *
子供3人以上	-0.031	0.136
子供の世話時間(平日)(0~29分)(ref.)		
子供の世話時間(平日)(30~99分)	0.184	0.240
子供の世話時間(平日)(100分以上)	0.133	0.383
年齢	-0.006 *	0.006
妻の収入(0~99万円)(ref.)		
妻の収入(100~399万円)	-0.564	-0.511
妻の収入(400万円以上)	-0.437	-0.574
妻の収入(わからない・答えたくない)	-0.492	-0.611
夫の収入(0~399万円)(ref.)		
夫の収入(400~599万円)	-0.092	0.187
夫の収入(600万円以上)	-0.413	-0.148
夫の収入(わからない・答えたくない)	-0.072	0.156
n	753	710
R2	0.064	0.023
自由度調整済み R2	0.046	0.004

Note. +p < .10 \*p < .05 \*\*p < .01 \*\*\*p < .001

#### 5. 考察

クロス集計の結果、女性の場合、専業主婦願望を強める要因として学歴が有意であった

が、統制変数の影響を考慮した重回帰分析の結果より、最終学歴、子供の人数、子供の世話時間が有意とはならず、3つの仮説とは異なる結果となった。男性の場合も同様、3つの仮説とは異なる結果となった。重回帰分析の結果より、専業主婦願望には年齢、専業主夫願望には子供の人数が影響を与えていることが分かった。つまり、専業主婦願望を持つ妻の特徴として年齢が若い、専業主夫願望を持つ夫の特徴として子供がいるということである。これより、若い女性は今後結婚や出産のため一時離職し、専業主婦となることを予測していることから、専業主婦願望を持っているのではないだろうか。一方男性は、長時間労働で子供と過ごす時間が短くなることより、子供がいない人に比べると、専業主夫になればより子供と過ごす時間が確保できることから、専業主夫願望を持っているのではないだろうか。

最後に残された課題について2点指摘する。まず1点目に使用したデータの問題である。今回は大津市のデータを使用したため、今回の結果が大津市の限定的な結果であるかもしれない。全国サンプルを使用した分析を行うことによって、日本全体について議論することができるだろう。2点目に重回帰分析の結果の自由度調整済み決定係数である。自由度調整済み決定係数の値が小さい、つまりモデルへの当てはまりがよくないため、専業主婦願望・専業主夫願望を説明できていないと言いきれない。また、各説明変数の有意確率を見ると、女性の場合、年齢、男性の場合、子供の人数のみ有意になっている。このことから、他の変数の影響がないことが分かる。よって、専業主婦願望、専業主夫願望の度合いに影響を与える変数は他にあり得る可能性が考えられる。

## 6. むすび

女性の社会進出に関して、近年女性が働きやすい環境づくりはなされてきているが、若い女性は専業主婦願望を持っている。よって、結婚や出産のため離職したとしても職場復帰しやすい環境づくりと女性の社会進出に関する意識を把握することも大事なのではないか。

また、出生数の低下は、女性の社会進出が原因だと考えられてきたが、ある調査の結果から、就業率の高い国ほど出生率が高くなっていることが分かっている（山口 2006）。例えば、フランスやオーストラリア、イギリス、スウェーデン、アメリカなどは、日本よりも女性の労働力率が高いが、合計特殊出生率も高い。これらの国では、女性が仕事と家庭を両立できるように社会環境を整備したことから、そのような結果になったと考えられている。

本研究の結果では年齢や子どもの数が有意な要因として見つかった。そこで、属性に加えて、専業主婦願望とキャリアに対する意識を明らかにすることより、女性のニーズにあった施策をつくり改革ができるはずである。それにより、女性の就業率の維持または増加に繋がり、少子化の緩和を狙うことができるのではないだろうか。また、今後増加すると考えられる専業主夫に対しても同様に、施策、改革の必要性があるだろう。

以上より、さらに専業主婦願望、専業主夫願望の要因となるものを特定するための研究が必要になってくるだろう。



## 参考文献

大沢真知子, 2015, 『女性はなぜ活躍できないのか』東洋経済新報社.

厚生労働省, 2019, 『働く女性の実情 (平成 30 年版)』厚生労働省.

白河桃子, 2014, 『専業主婦になりたい女たち』ポプラ社.

山口一男, 2006, 「女性の労働力参加と出生率の真の関係について—OECD 諸国の分析と政策的意味」独立行政法人経済産業研究所, Research & Review (2006 年 4 月号) .

## ウェブサイト記事

G0 キャリアパーク！ 転職 日本は遅れている | 女性の社会進出を阻む理由と 2 つの問題点.  
<https://careerpark.jp/14682>

ママテナ 女性のさらなる社会進出が注目される理由

<https://www.mamatenna.jp/article/6994/>